

『現象と秩序』（1号～20号）論文一覧・著者名順（アルファベット順）

著者名	論文名	号	頁
精木 珠栄 檜田 美雄	〈看護師〉を辞めた看護師の職場と生活の社会学	16	19
相原 洋子 檜田 美雄 山下 正 山本 昭宏	世代間交流から考えた健康的な食生活習慣	7	23
江原 由美子	「社会学を基盤にした新しい専門職」問題をソーシャルワーク論の視点から考える	8	3
藤野 久美子 檜田 美雄	ルールや環境から直接規定されないものとしての実践 —女性競技者による車椅子バスケットボールの場合—	7	81
橋本 雄太 井上 裕太	新しき吃音者像 —『アサッテの人』論—	12	27
本郷 正武	医師養成教育での社会学の位置づけ —「薬害教育」からの展開可能性—	4	39
堀田 裕子	在宅療養の社交性とその意義に関する一断章 —ALS患者Sさんの事例より—	2	209
堀田 裕子	男性介護者のビデオエスノグラフィー —ある息子介護者を例に—	3	1
堀田 裕子	カラオケの相互行為秩序に関する試論	10	1
堀田 裕子	『現象と秩序』第10号記念号によせて —総目次の「まえがき」として—	10	69
堀田 裕子	特集2：音楽療法のエスノメソドロジー	11	33
堀田 裕子	音楽療法場面の相互行為分析 —かみ合わないセッションのシーンを中心に—	11	35
堀田 裕子	手の回路によるコミュニケーションのビデオエスノグラフィー —発声と動作が困難な者のケース—	12	1
堀田 裕子	認知症者と「音楽の物象化」をめぐる相互行為分析 —「不合理」はどのように合理化されるのか—	13	29
堀田 裕子	「試着のエスノメソドロジー」の可能性 —何がどのように試着されるのか—	14	1

特別企画

堀田 裕子	鏡に映る自分を褒めることはいかにして可能か —試着場面における「かわいい」をめぐる相互行為分析—	18	23
堀田 裕子	試着接客場面における F 陣形 —チェックマーク型配列の発見,あるいはアクターとして鏡をとらえること—	19	35
堀田 裕子	『現象と秩序』第 20 号記念号によせて —10 年間の途筋—	20	1
堀田 裕子 松井 美冴希 丸地 賢典	三河赤引糸とお糸船の伝統を支えてきた人びと —新城の養蚕家を訪ねて—	15	49
飯田 奈美子	幼児による相互行為の理解と実践についての考察 —祖母と孫の「質問 - 応答 - 評価」隣接対の分析から—	7	31
飯田 奈美子	助産師外来における通訳者の介入行為 —通訳を介した相互行為の会話分析—	15	25
飯田 奈美子	通訳を介した医療コミュニケーションにおける通訳者の受け手性の考察	20	27
池谷 のぞみ	フィールドワークとデータセッションで気をつけること：エスノメソロジーの態度とは—第 1 回神戸 EMCA 研究会における講演記録(2014 年 12 月 20 日)—	4	99
石川 ひろの	医療コミュニケーション研究の方法論的議論と発展 —『Communication in Medical Care』訳書からの検討—	3	17
和泉 俊一郎	日本の医学部教育における社会科学教育の必要性	4	29
加戸 友佳子	アトピー性皮膚炎における身体境界の「搔破」	13	1
加戸 友佳子	セクシャル・ハラスメントを「語る」とはいかなることか	14	21
加戸 友佳子 檜田 美雄 加藤 美奈子	遠隔コミュニケーションにいかに適応するか？ —Zoom 上の買い物で行われていることについてのエスノメソロジー —	18	1
金子 雅彦	医科大学の社会学者	4	19
檜田 美雄	研究倫理の討議的達成の相互行為分析 —福島原発事故・甲状腺検査評価部会のケーススタディー —	1	103
檜田 美雄	小特集：専門職教育における社会学	4	1
檜田 美雄	殉職警察官家族インタビュー（2 件・沖縄）の検討 —殉職の社会学のために—	5	49

檜田 美雄	社会学を再帰的に問い直す試み —あるいは「論文投稿支援ワークショップ」実施報告4論文に 関してのコンメンタール—	6	31
檜田 美雄	特集：多文化異文化交流と学園都市的食生活	7	1
檜田 美雄	特集：社会学を基盤にした（ソーシャルワーク系）新専門職の可 能性	8	1
檜田 美雄	特集：社会福祉専門職と社会学	9	1
著者： D.W.メイナード 訳者： 檜田 美雄	<翻訳と訳者解説> ゴフマン，ガーフィンケル，そしてゲーム	10	57
檜田 美雄	特集1：学問の不可視の前提を外して研究しよう	11	1
檜田 美雄	いかにして障害者の文化を研究するか —「生活者学的障害社会学」の構想—	11	21
檜田 美雄	音楽療法のビデオ・エスノグラフィー —療養者のブリコラージュとしてのメロディー対応型手拍子—	11	57
檜田 美雄	人権社会学としての『〈当事者宣言〉の社会学』	14	65
檜田 美雄	東京2020オリパラ競技大会から考える人権社会学 —権利認識されがたい「パスする日常」に注目する「人権社会学」 を用いて，対セメンヤほか計3種の「参加拒否問題」を考える—	15	101
檜田 美雄	暗号の社会学 —公務員試験の「暗号問題」は，社会性のテストとして出題され ている—	19	57
檜田 美雄	『走れメロス』のシン・社会学 —出口智之（文学）と見田宗介（社会学）の議論を受けて—	20	105
檜田 美雄 堀田 裕子 若林 英樹	在宅医療文化のビデオエスノグラフィー —生活と医療の相互浸透関係の探求—	1	95
檜田 美雄 堀田 裕子 若林 英樹	在宅療養インタビューで発見された2つの課題—「病歴と生活 歴のズレ問題」と「看取りのパラドックス問題」	2	201

特別企画

榎田 美雄 加戸 友佳子 加藤 美奈子	AI と人間とのコミュニケーション・トラブルのエスノメソドロ ジー —アルファ碁第37手の非受容とアレクサの再発話の非受容の事 例比較—	17	47
榎田 美雄 山下 正 相原 洋子 山本 昭宏	地域と生協と大学 —大学改革を展望するものとしての学園都市的食生活研究—	7	2
榎村 志郎	法学部・法科大学院における社会学教育はいかにあるべきか？	4	57
著者： デイヴィッド E. J. パーデュ & P. デイヴィ ッド ハウ 訳者： 榎田 美雄 平澤 彩乃	<翻訳と訳者解説> 誰が出演し、誰が除外されるのか？ —パラリンピック競技大会における適格な身体とは—	13	63
加藤 美奈子 加戸 友佳子 榎田 美雄	遠隔コミュニケーションに関連した共同作業のビデオ・エスノ グラフイー —アマゾン社の Echo Show を用いた共同作業の特徴の探究—	16	51
木下 衆	研究者によるケアを、誰がいかに支えるか —研究者のための社会学—	8	39
Ryotaro KOGUCHI	“Difficulties in life” in Turner Syndrome : Comparative Analysis of Narratives of Patients and Their Mothers	12	61
児島 功和	子育て中の大学教員はどのように仕事と家庭生活のバランスを とっているのか	15	1
小坂 啓史	映画の表現技法におけるモンタージュと鑑賞	13	51
松繁 卓哉	『現象と秩序』記念すべき第20号へ向けて	20	3
松浦 智恵美	雑誌評：『新社会学研究』	8	67
舞弓 京子 榎田 美雄	看護師育成におけるコミュニケーション学習の現代的課題 —会話分析的探究—	9	43
明 珠理亜 榎田 美雄	人生を彩るものとしての病気 —生活者の理解と推論に存在する合理性を把握する生活看護学 —	12	41

講演： D.Maynard 翻訳： 南 保輔	悪いニュースと良いニュース：ニュースをどう伝えるか —メイナード博士講演記録(2004)—	3	27
桃井 克将	相談援助演習における「沈黙」を理解するための取り組みとそ の実際 —社会福祉士の養成校におけるアクティブラーニングを充実さ せるために—	7	45
村中 淑子	大阪と奈良北部の方言に関する調査報告 —待遇の助動詞ハル・ヨル・ヤルおよび「〇〇弁」意識—	1	127
村中 淑子	明治小説にみる京都方言 —清水紫琴「心の鬼」(明治30年)を資料として	2	173
村中 淑子	和歌山県北部におけるアスペクト表現「チャウ」について	2	191
村中 淑子	「グレー」と「灰色」について —外来語と和語の類義語ペアの使い分け事例として—	3	57
村中 淑子	関西方言の自称詞・対称詞に関する覚え書き	3	69
村中 淑子	色彩語「ブルー」について —明治・大正の文献から—	4	67
村中 淑子	大阪におけるテ敬語の消長 —大正・昭和初期の小説を資料として—	5	33
村中 淑子	関西方言におけるデスマス体の転訛形についての試論 —『NHK全国方言資料』を用いて—	6	1
村中 淑子	方言集『たつのくち 村ことば百景』について —「全国方言基礎語彙調査項目」を用いた分類の試み—	8	79
村中 淑子	「穴さがし心の内そと」における罵り表現について —助動詞・補助動詞を中心に—	10	21
村中 淑子	「デス・マス+文末表現」の転訛形と非転訛形について —田辺聖子の小説を用いて—	11	73
村中 淑子	明治・大正期の大阪落語資料にみる罵りの助動詞について	14	45
村中 淑子	上方漫才談話にみるアップシフト —M1グランプリ2020のデータより—	15	79
村中 淑子	上方洒落本における罵りの助動詞 —『異本郭中奇譚』(1772)を中心に—	16	69

特別企画

村中 淑子	上方洒落本における罵りの助動詞（２） —『月花余情』大坂板・江戸板を中心に—	17	19
村中 淑子	20世紀前半の上方落語にみる待遇の助動詞について	17	31
村中 淑子	織田作之助『わが町』における罵りの助動詞について	18	47
村中 淑子	『諺 臍の宿替』における罵りの助動詞について —クサル・ヤガル・テケツカルを中心に—	18	63
村中 淑子	「チョコレート色」の猫 —色名の具体性と抽象化—	19	23
村中 淑子	落語「らくだ」の東西比較 —ののしりの助動詞を中心に—	20	43
中恵 真理子	聴声当事者家族の生きるリアリティ	5	1
中恵 真理子	聴声支援者のストラテジー	11	93
中恵 真理子	日本におけるヒアリング・ヴォイイズ運動の受容 —「聴声」概念の創出とその説明の変遷—	14	31
中根 成寿	政策科学と社会福祉学の方法論から「社会学を基盤とした専門職」構想を考える	9	3
中澤 秀雄	コモンセンス・ファシリテーターとしての社会学	4	3
西澤 弘行 南 保輔 坂井田 瑠衣 佐藤 貴宣 秋谷 直矩 吉村 雅樹	視覚障害者と歩行訓練士の相互行為の中の触覚についての覚え書き	5	15
呉 獨立	「当事者/宣言」としての「孤独死」現象 —「〈当事者宣言〉の社会学」のための概念の再構成とその適用—	17	1
岡田 光弘	エスノメソドロジー研究の想像力 —社会に学ぶ想像力を解放する—	10	39
岡村 逸郎	死と自責の念の描写に伴う重さを緩和する技法としての〈笑い〉 —『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』を通して行なわれた制作者の文化実践—	19	1
遠部 慎	六部堂の歴史的環境	13	17
遠部 慎	豆をまかない村	15	67
遠部 慎 武田 正明 竹本 歩	障がい当事者による居場所づくりのモノグラフ —「ゆきどけ～ほっとスペース～」の歴史的経緯を中心に—	20	95

大上 梨奈	中途診断の社会学 —青年期に発達障害と診断されることの意味の分析—	2	19
齋藤 雅彦	医療化する家庭と家庭化する医療 —在宅医療のビデオ・エスノグラフィー(卒論版)—	1	5
櫻井 庸子	社会学者, ブレーンアタックに遭遇 —新たな知への開眼—	17	65
篠島 あかり 檜田 美雄	ALS 療養者共同体における在宅療養の工夫と文化創造 —我々が見て考えることができるもの—	7	61
菅野 摂子	出生前検査の選択性と問題性 —出生前検査における女性/男性/遺伝カウンセラーの語りから—	9	23
高橋 まな穂 檜田 美雄	2つの連続した呪縛の観点からみた『吃音者宣言』	9	61
田中 もえ 檜田 美雄	『エーペックスレジェンズ』における相互行為文化の研究	18	75
巽 真理子	大学における男女共同参画推進コーディネーターは専門職になり得るのか? —社会学を基盤にした専門職についての考察—	8	17
巽 真理子	親支援職における社会的視点とジェンダー視点の必要性 —NPO と大学での支援経験から—	9	11
時岡 新	アクティヴ・インタビューと語りの生成 —訊き(聴き)手と語り手が協働する“きき方”と“書き方”について—	11	5
渡 正	障害者スポーツにおける障害の非障害化の社会学	16	1
山田 実沙子 檜田 美雄	生活の中の障害 —軽度で非顕在的でかつ波と幅と時間的推移と場面性のある障害としての吃音と「工夫」の社会学—	6	49
山木 ありさ	地域芸能伝承の戦略と「受容者」たちの実態に関する研究 —徳島県三番叟まわしを事例として—	2	1
山下 正 檜田 美雄 相原 洋子 山本 昭宏	健康的な生活のあり方と多文化理解 —学術研究都市で実施したワークショップを通して—	7	15
山崎 てるみ	異文化理解が会話に現れる様子 —ロシア人留学生 Mさんと私の対話から—	4	81

特別企画

山崎 てるみ	Mさんインタビュー記録 - 『現象と秩序』第4号掲載論文「異文化理解が会話に現れる様子—ロシア人留学生Mさんと私の対話から—」関連資料	4	補遺
山崎 てるみ 檉田 美雄	日本的なマンガを描きたい —中国人留学生 Dさんにおける異文化理解と表現の的確さおよび洗練性—	6	77